

中学生まちづくりスクールミーティング

～『SDGs de 地方創生』カードゲームで『まちづくり』を考えよう！～

実施報告書



概要

日時・場所

令和5年8月22日（火）午後2時～4時30分

東部市民センター 講堂

参加者

篠岡・桃陵・光ヶ丘中学校生徒の皆さん 20人

特定非営利活動法人 こまき市民活動ネットワーク 事務局次長 清水 麻生氏

主催

小牧市

市長あいさつ

皆さんこんにちは。

今日は、中学生まちづくりスクールミーティングにご参加いただきましてありがとうございます。

私が市長に就任してからずっと、市民の皆さんと意見交換をする場を作っていこうということで、いろいろな立場の方といろいろなテーマでタウンミーティングを行ってきました。その一つとして、中学生や高校生、大学生の皆さんとのタウンミーティングを行っています。

今回は『SDGs de 地方創生』カードゲームを使って、皆さんにまちづくりを考え、アイデアを出してもらって、それを今後の小牧のまちづくりに活かしていけるといいなと思っています。

また、皆さんも今回のスクールミーティングをきっかけにして、自分たちの生まれ育った地域を知り、関心や愛着、そして誇りを持っていただきたいと思います。

皆さんはSDGsという言葉聞いたことがあると思いますが、環境の問題をはじめ、人権や教育の問題など、世界全体でより良い社会を目指していくという国連の目標があります。

小牧市もSDGsが達成できるよう努力していて、内閣府から「SDGs未来都市」として選定を受けています。名古屋市を除けば、尾張地域では小牧市だけです。

SDGsを達成するには、市民の皆さんが自分事として考えて、行動していくことが必要です。今回いろいろな気づきを得て、行動につなげてほしいと思います。

ぜひ楽しみながら、日ごろ思っていることや感じていることを率直に出して、話し合いを深めてもらえればいただければと思います。

よろしくお願いします。



オープニング

現在、日本全国に1,724の市町村があります。このうち896市町村が、今から17年後の2040年までに無くなってしまふかもしれないと言われています。

今、日本の人口は右肩下がりに減ってきていて、高齢者の人口が増えています。小牧市も同じような状況です。人口減少と超高齢化の何が問題かという、人が減ることによってまちの税収が減ることです。

そうすると、例えば福祉とか教育のサービスができなくなったり、道路や水道が壊れたりしたら直せなくなったり、災害の対策ができなくなったりして、単純に人がいなくなるというだけでなく「住めないまち」になってしまうことが大きな問題です。

そこで『地方創生』という政府の方針が立てられました。地方創生は「みんなで協力して地域を元気にして、日本がずっと元気であり続けられるようにする」という考え方です。

この地方創生を進めていくにあたって、SDGsの考え方を取り入れていこうということが決められています。SDGsとは「人も地球も大切に続ける」ということです。

ここで、なぜSDGsという考え方ができたかを説明します。

人類が誕生してから今まで、世界のどこかで戦争が起こっています。戦争が起こると、人が命を落とすというだけではなく、けがや病気が増えて治すことができなくなったり、食べ物が手に入らなくなったり、勉強ができなくなったり、働けなくなったりして、争いがもっと増えることになります。

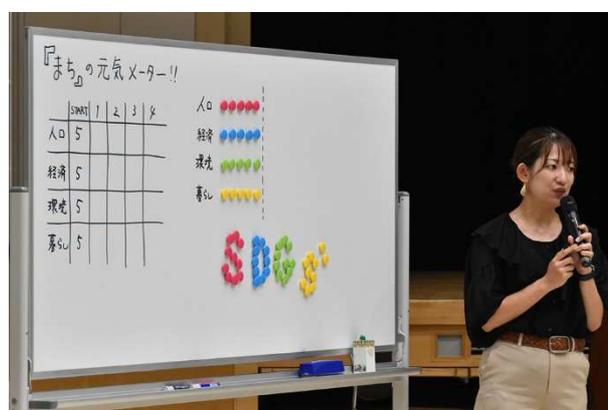
第二次世界大戦により、世界中でたくさんの人たちが亡くなって、けがや病気で苦しむ事態になりました。この事態を何とかするために作られた組織が国際連合です。国連は、戦争で苦しんでいる人たちをなくすために、たくさんの施策を行いました。

しかし1970年代、80年代になると環境破壊が深刻になり、それ以降、国連は地球環境の保護にも取り組むこととなりました。そこで国連・政府だけではなく、企業やNGO・NPO、学校、さらには一人一人が協力して一緒に地球を守ろう、というのがSDGsの考え方です。

地方創生もSDGsも「みんなで力を合わせる」ということが大切なポイントです。

ゲームの説明

- 参加者は、行政または市民として、一つのまちで暮らしている。
- 1ターン（10分間）×4ターン、それぞれが抱く目標を達成するために、そしてまちを元気にするために活動する。
- 参加者は手元にあるお金・資源を使ってミッションをクリアしていく。ミッションをクリアすることで、新たなミッションとお金・資源が手に入る。
- クリアしたミッションにより、人口・経済・環境・暮らしのバロメーターが増減する。
- 1ターン終了するごとに、人口と経済のバロメーターに応じた予算が支給され、人口のバロメーターが1減少する。
- 一度クリアしたカードを、再度クリアすることはできない。



市長講評（2ターン目終了後）

皆さんでそれぞれ話し合っ、いろいろなプロジェクトを実現して、解決に向けて頑張ってくれているなと感じました。

今は人口のバロメーターが2つ減って、経済と暮らしが1つずつ減っていますね。

皆さんは、どういう役割の人がいるか、そして自分の手元にはどういうプロジェクトと資源があって、何が足りないかを既に把握していると思います。

現実の世界でも言えることですが、現状分析をしっかり行って、情報交換によって相手の状況も知ることができると良いですね。とても短い時間ですので、どんどん動いてミッションをクリアしていくスピード感も大切かなと思います。

ゲーム中の様子



全ターン終了

人口：5 ⇒ 3 経済：5 ⇒ 6

環境：5 ⇒ 6 暮らし：5 ⇒ 2

市長講評（全ターン終了後）

最終的なバロメーターのうち人口が3でしたね。

3まで減ってしまったという考え方もありますが、何もしなくても人口は1ターンごとに1つずつ減っていきますので、4ターンあれば1まで減ってしまうところでした。

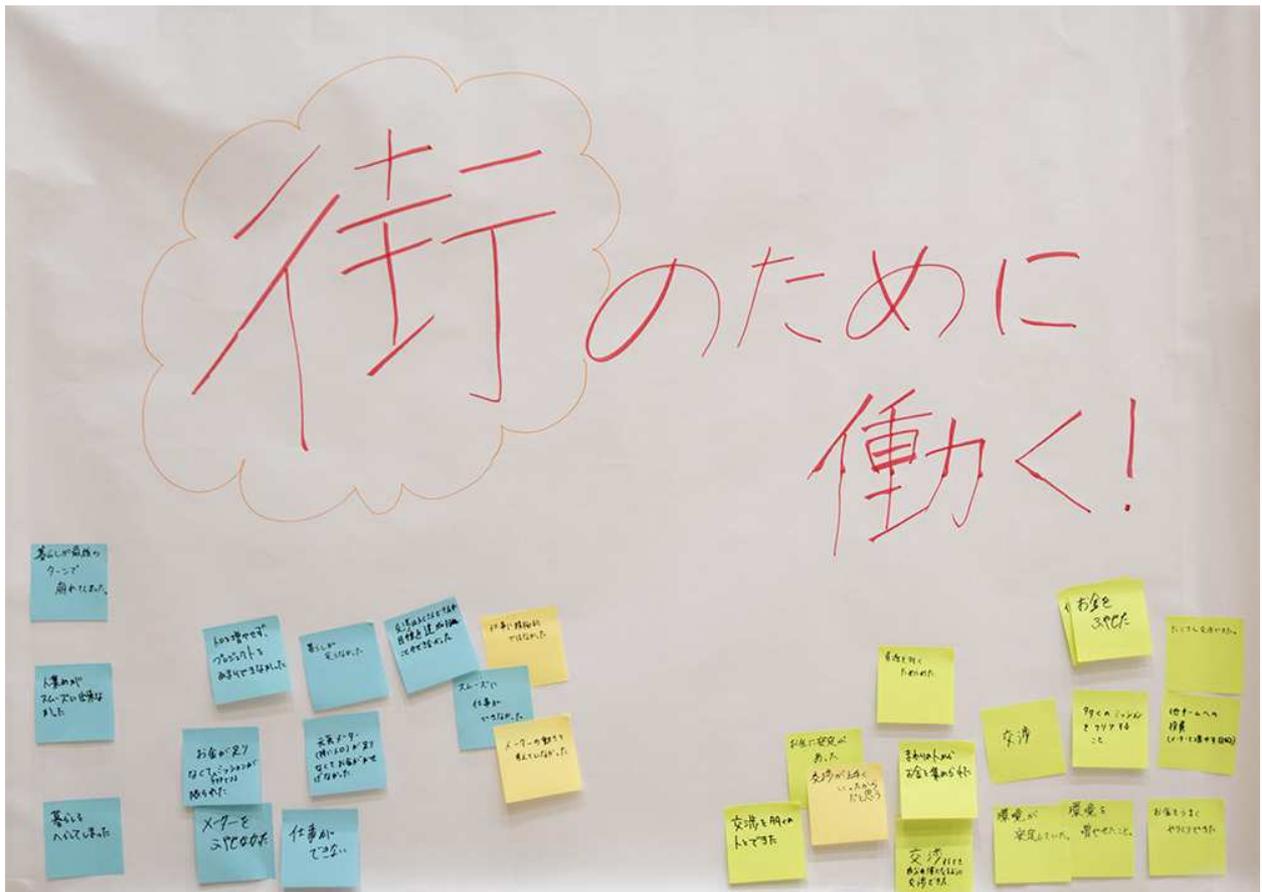
皆さんが行ったプロジェクトによって3に止まったということですね。つまり、消滅はしなかった。何とか維持している、頑張っているということかなと思います。

くらしのバロメーターは下がりましたが、経済も環境も良くなりましたね。皆さんよく動いて頑張ってくれました。大切なのは、ここから何に気付き何を学ぶかということです。この後みんな考えていければと思います。

振り返り

- ゲームをやってみてうまくいったことと、その理由
- ゲームをやってみてうまくいかなかったこと、困ったことと、その理由
- まちを元気にするために、どうしたら良かったと思うか

《Aグループ》



- うまくいったこと

交渉をたくさんしてお金を増やしたこと

- うまくいかなかったこと

仕事があまりできなくて、まちの元気メーターが増やせなかったこと

自分たちの目標が達成できなかったこと

- まちを元気にするために、どうしたら良かったと思うか

まちのために働くということ

バロメーターを増やすには働くことが必要だと思うが、結果としては仕事量を増やすことができなくて、バロメーターもこういう結果になってしまったので、実際に働くということはすごい思い通りにするのは難しいと感じた。

《Bグループ》



- うまくいったこと

経済だけでなく、環境の発展にも力を入れたこと

- うまくいかなかったこと

お金の足りないと言っている人がいたこと

まちの元気メーターが足りなくなって、仕事があまりできなかったこと

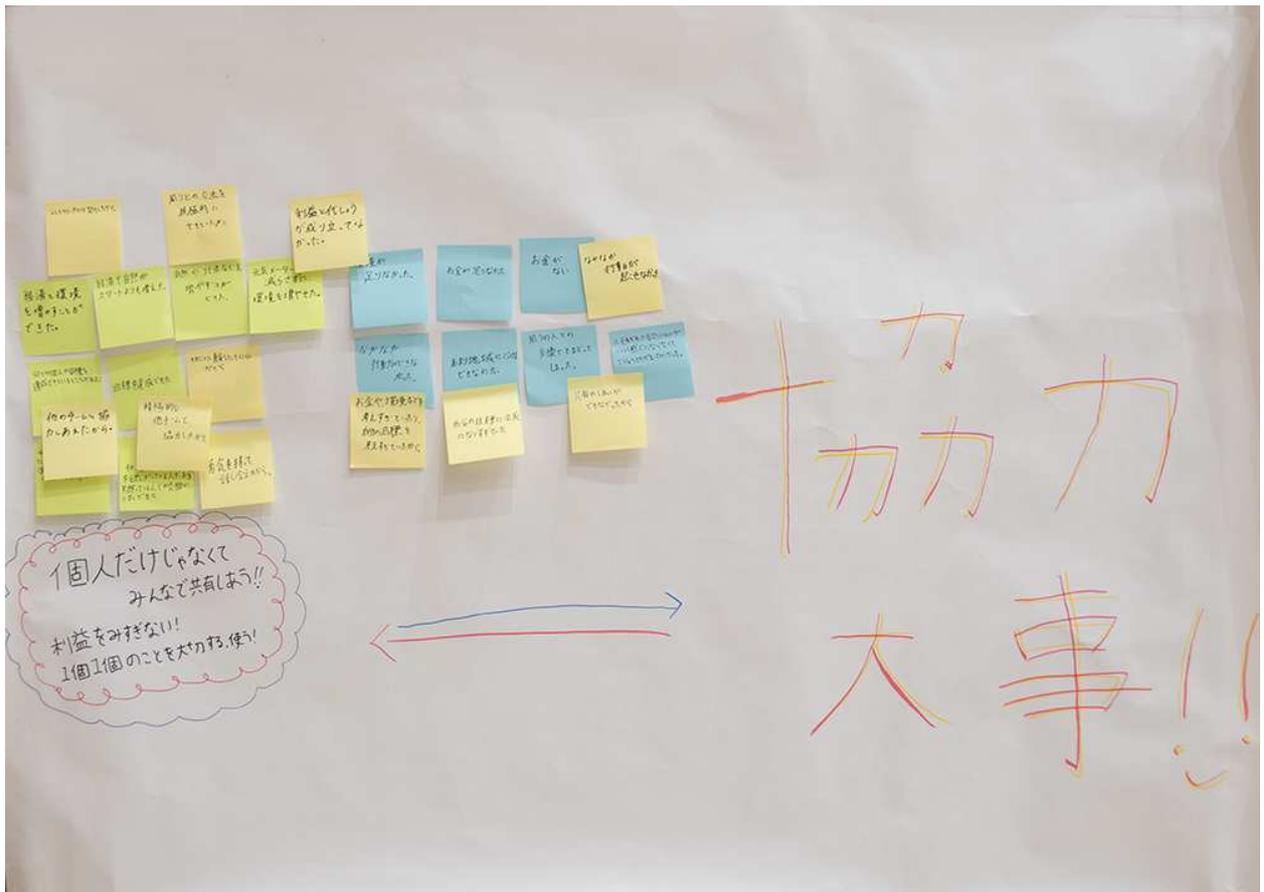
- まちを元気にするために、どうしたら良かったと思うか

自分の目標に集中しすぎないということ

全体を見て行動するということ

まちの元気メーターが偏ってしまったのも、自分たちの目標を達成するために行動した結果偏ってしまったということがあったかもしれない。全体を見ながら行動していくと、まちが平等に良くなっていくのではないかと考えた。

《Cグループ》



- うまくいったこと

経済や環境が増えたこと

他のメンバーとの協力がうまくいったこと

- うまくいかなかったこと

ゴール目標を達成できなかったチームがあったこと

- まちを元気にするために、どうしたら良かったと思うか

個人だけでなく、みんなでお互いの状況を共有し合うこと

目の前にある利益を見すぎずに、その結果がどうなるのか、そしてどれだけの資源やお金が必要かを考えて行動すること

自分の持っている資源やお金を使いすぎたりもらいすぎたりせず、バランスが大切で、協力することが必要だと考えた。

まとめ

ゲームを行う中で、良くも悪くもまちの様子に変化がありました。ではこの変化はなぜ生まれたのでしょうか。SDGsや地方創生に通じる大切な考え方があります。

一つ目が、遠回りも近道ということです。

皆さん「このミッションで人口が増えそう」と思うこともあったと思いますが、必ずしもそうではありませんでしたね。それでも、人口増加につながるミッションを出すために、他のミッションをどんどんクリアしてきたと思います。一見遠回りに感じる道でも目標達成につながるということが、一つ目のポイントです。

二つ目は、発表の中にもありましたが、みんなつながっているということです。

SDGsの目標は、どれか一つを達成したら良いというものではなく、17個すべて達成しなければ意味がないと言われています。

今日のゲームも同じで、皆さんが動かないとバラバラで持っているカードがつながりません。そうすると何も達成できなくなってしまいます。それを皆さんがつなげたからこそ、経済と環境の伸びにつながったのだと思います。

三つ目は、ゴールから考えるということです。

今回、皆さんにはそれぞれの目標とまちを元気にしようという目標がありました。

どこかのグループで「どうしたらクリアできるかわからない」という話がありましたが、「人口を1増やそう」という手前の目標を考えていたのではないのでしょうか。これをもっと大きなゴールから逆算したら、もしかしたらまた違った見え方や動き方があったかもしれません。

四つ目は、見える化するということです。

SDGsの考え方もわかりやすいアイコンになっています。今日のまちの元気メーターも一緒ですね。皆さんがそれぞれ動いていても、まちの状況が同じようにわかったと思います。

このように、たくさんの人たちで動くときは、みんなが同じ基準を持っていることが大切です。

もう一つ、氷山の話をしてします。

氷山の一角という言葉聞いたことがありますか。氷山の見えている部分がありますが、その下にはもっと見えない部分があるという話です。

見える部分は、いわゆる物事の結果のことです。

でも、途中のそれぞれの行動や考え、何を大事にして動いていたかは、分からなかったのではないのでしょうか。これが見えない部分です。つまり、目に見えているこの結果は、目に見えない一人一人の行動や考え方からつながっているということです。

まちを元気にするためには、それぞれのグループで考えてくれたことももちろん大切です。その中でも覚えておいてほしいのが「一人一人が考えて行動すること」が一番大切な根幹であるということです。

今日のゲームで体感して楽しかった、だけでなく、そこからもう一步踏み込んで、このまちのことをもっと知って、考えて、小牧がもっと良くなるよう行動する一步になればと思います。

市長講評（おわりに）

皆さんお疲れ様でした。

このゲームの難しいところですが、プロジェクトをやってみるまで結果がわかりませんでしたね。このプロジェクトでこのメーターが増えるはずと思ってやった結果、意外とそうならなかったり、他の何かが減ってしまったりということがあったと思います。実は、現実のまちづくりでも同じようなことが言えます。



小牧市民15万人がそれぞれ行動した結果が、まちの暮らしやすさにどのようにはね返ってくるのかは、予測が難しく、起こってみるまでわかりません。先ほどの発表でもありましたが、自分の目標を達成するというだけに集中しすぎず、まち全体のことをみて協力し合うことが大切です。

普段の生活の中で、自分のことだけではなく、少しずつでも地域や他の人の幸せのことを考えたり、環境のことを考えたりできれば、よりよい社会になっていくと思います。今日の成果を、ぜひ明日以降活かしていきましょう。

参加していただいた生徒の皆さん

篠岡中学校	高橋 渉太郎 さん	箕田 真実 さん
	土屋 まち さん	岡田 璃空 さん
	石川 慎之助 さん	青木 幸正 さん
	高取 初季 さん	
桃陵中学校	伊東 慎平 さん	佐藤 佑朱 さん
	水野 希夏 さん	田口 裕大 さん
	清本 悠世 さん	坪井 直翔 さん
	此島 涼真 さん	山出 真代 さん
光ヶ丘中学校	中野 朔来 さん	稲葉 るいな さん
	古田 桜輝 さん	伊奈 和弘 さん
	友永 実来 さん	